

平成30年度
学 校 評 価

令和元年5月

共立女子学園 共立大日坂幼稚園

1、学校の現況

- ・所在地 文京区小日向 2-17-7
- ・学級構成 3歳児1学級（日常は2つに分けて保育している）、4歳児1学級、5歳児1学級
- ・園児数 107人
- ・教員数 園長1人、専任教員5人、嘱託教員1人、非常勤教員2人、臨時職員1人

2、本園の教育目標

学校教育法第77条の「幼稚園は幼児を保育し、適当な環境を与えてその心身の発達を助長することを目的とする」をふまえ、目標を「伸びる力・育つ力・求める心を大切にしみゆく健やかで楽しい保育」「集団生活の中で互いの心にふれあい、自分を確かめ協力のよろこびを培う」と定め、教育要領に沿い、遊びを通して本来幼児一人ひとりが持っている力を引き出し育っていくように、各学年、園児の発達に合わせた年間目標や月のカリキュラムを明らかにしながら教育を進めている。

3、平成30年度重点的に取り組む目標・計画

- ・主体的な遊びを豊かな学びに繋げる。
- ・遊びや活動の中で、友達との関係や異年齢の関わりを深める。

4、評価項目

①教育課程・指導

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った指導の状況
- ・遊びを通しての総合的な指導の状況

②保健管理

- ・家庭や地域の保健・医療機関等との連携の状況
- ・日常の健康観察や疾病予防のための取り組み、健康診断の実施状況

③安全管理

- ・事故等の緊急事態発生時の対応状況
- ・園内、または園付近通園路の安全点検の状況

④組織運営

- ・園務が分掌され円滑に執り行われる組織体制の状況
- ・職員会議の運営状況

⑤研修・資質向上の取り組み

- ・園内研修・園外研修の実施、参加状況

⑥学校評価

- ・自己評価の実施状況

⑦情報提供

- ・保護者への園公開の実施状況
- ・園便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の提供状況
- ・ホームページを活用する等、広く周知するための工夫の状況

⑧保護者・地域住民との連携

- ・地域や保護者の実情や要望による子育て支援活動の実施状況

⑨預かり保育

- ・園や教職員による受け入れ体制の状況

5、項目における自己評価

① 教育課程・指導

(1) 分析

〔視点〕 稚園教育要領の内容に沿った指導の状況

〔状況〕平成30年から施行された幼稚園新教育要領では、各領域における「ねらい」に加えて、新たに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目を明示している。この10項目を意識し、園児一人ひとりの育ちについて日頃から確認、検討、見直しを行っている。

子ども達が経験を通して様々なことを学んでいくことに重点を置き、園生活の中で子ども自身が実際に体験できる機会を豊かな学びに繋げている。実践のために全教員が日々子どもの様子を丁寧に観察し、子ども一人ひとりを理解して、共有し、一つの事柄から育っていくものが何かをみつめ、活動を援助し豊かな学びに繋げている。心の動きにも目を向け、子ども自らがもった、「知りたい」「おもしろい」「楽しい」の気持ちに気付き、育てていき、一人から友達へ、そして集団へと繋がる指導をしている。環境についても設定する際には、子どもが自ら「やってみたい」と思えるように、その時機を判断しタイミングを逃さず、様々なことを想定して環境を整えている。

(2) 今後の課題

教員全員が共通意識を持ちカリキュラムマネジメントを確立するために、話し合い検討課題を明らかにし、改善していく。

〔視点〕 遊びを通しての総合的な指導の状況

〔状況〕園庭で体を使う遊びでは、多様な動きを経験し運動能力を高める遊びを提案し、環境に取り入れてきた。輪投げ、走り幅跳び、ボール投げ、サッカー、中あて、ドッジボールなどでは、難易度によって点数をつける工夫を取り入れ、子どもたちがより楽しく達成感を持って遊ぶようにした。大縄跳びでは、日付と跳んだ回数を記録する「縄跳びカード」を作り、数が増える喜びや挑戦する意欲を引き出すきっかけにし、子どもたちが継続して遊ぶ中で順番を待って並ぶこと、他児の姿を見て刺激を得ること、学年を交えて遊ぶことなど集団でのルールについて自然と取り入れられる機会になっている。多様な動きを経験する機会として、様々な種類の鬼ごっこも取り入れ、限られた環境の中で自分の体の動かし方や他者との距離の取り方を把握しながら身体を動かしている。

砂遊びでは、子どもの想像力を育み工夫する過程を見守り遊びが広がっていくことを援助し、伝承遊び（花いちもんめ、かごめかごめなど）、ゴムダンについては教員が積極的に取り入れ、豊かな経験に繋げてきた。

園庭や室内を問わず繰り広げられているごっこ遊びでは、細かな背景や場面設定を決めて役になることや、やりとりを楽しむ経験の中で自分の思いと友達の思いが違うことに気付き、主張を聞いたり、相談し合ったり譲ったりする関係が生まれ、最終的には子ども達自らの力で発展できるように言葉掛けし、提案、援助について工夫してきた。この遊びを通して子ども同士の関係性（協調性や信頼感）の育ちに繋がるような指導をしてきた。

室内遊びの中では特に歌や踊りや合奏などを取り入れ、自発的な発表や表現の機会が増え学年を超えて観客を呼び楽しんでもらう活動を伸びやかに楽しむことができた。

年齢の発達や経験を意識した学年ごとの遊びでは、年長児がボールを使った遊びを工夫して展開したことを運動会に取り入れたり、園外保育で動物園に出掛けた共通の経験から動物園ごっことして発展したり、集団での豊かな遊びになった。

年中児では決まったルールのある遊びを経験しながら、自分達で試行錯誤しながらルールを考え変化させ、それに対応していく力を育ててきた。

年少児では、特に子ども一人ひとりの興味関心があることに教員が気付き理解することから、子ども同士の協調性の芽生えを意識した援助をしている。

異年齢の交わりでは、年長児がする遊びについて関心興味を示した年下の子ども達にルールを説明する姿が定着し、新しいルールの提案や他者との関係性についてもリードする姿が見られるようになった。鬼ごっこでは、年長児の遊んでいる様子を見て年下の子どもが真似をしようとする時機を見極め教員が援助することにより、学年を越えての遊びが定着し充実し関係性は更に広がった。

季節ごとの遊びも大切に、水遊びやお正月のこま回しや羽根つき、学年ごとに素材や作り方を変えた凧あげも取り入れている。また、自然を題材に取り入れた遊び（花びらを使った色水作り、クローバーのアクセサリ作り、落ち葉を貼った製作など）を経験し、虫探しなどを通して、じっくり観察する、図鑑で調べることを通し知識だけではなく五感で感じたことを遊びに取り入れてきた。

製作活動では自分の考えを試行錯誤しながら作りあげるように、素材の使い方や作る過程について年齢に応じた援助をしてきたことで、遊びに必要な物を自分たちで考え、作り上げるようになった。

（２）今後の課題

幼稚園教育要領の内容に沿い幼児の発達に即した指導を子ども達の主体的な遊びを通してしてきた。引き続き教員間で園の環境を理解して工夫しながら指導を共有していく。同時に、子どもの興味関心やその時の姿を的確に捉え、豊かな学びに繋がるように援助や提案をしていく。

②保健管理

（１）分析

〔視点〕家庭や地域の保健・医療機関等との連携の状況

〔状況〕園医の協力を得て作成した「幼児健康調査票」を活用している。各家庭から提出された調査票を年度初めにまとめ、各クラスで健康に関する注意点やアレルギーに関するリストを作成し、素早く対応できるように学籍簿と一緒に保管している。

食物アレルギーについては、野菜を園で試食する時や誕生会のお菓子提供時には保護者への確認、教員間の情報共有をしている。軽井沢の宿泊保育に於ける食事メニューに関しては保護者、教員、栄養士が連携を図ることを徹底している。

園医の他にも園の近くにある整形外科や皮膚科など、子どもの様子により病院へ行けるよう、電話番号や場所などを備えた冊子を職員室に備え、いつでも動けるようにしている。また体調の変化や病院へ連れて行く際には保護者と連絡を取れるよう、電話の他に連絡システムも利用している。

（２）今後の課題

健康面で配慮すべき事、アレルギーに関することについては、年度初めに各担任が一人ひとりについて把握し、保護者とも連携を図り教員間でも共通理解する。

新しい教職員が入る場合には園医も含め、近隣の病院の場所についても確認すると共に、他教員も再確認する。

〔視点〕日常の健康観察や疾病予防のための取り組み、健康診断の実施状況

〔状況〕毎朝の教員打ち合わせの会で園児の疾患や感染症の情報を共有している。各担任が登園時に園児一人ひとりの様子を視診し、保護者から前日や今朝の園児の体調や様子について聞き、体調把握に細心の注意を払っている。

保育中にも体調の変化については注意を払い、万が一、発熱、嘔吐があった場合には別室で休ませ、蔓延予防に努めている。嘔吐の現場、排泄の失敗があった場合にも消毒を念入りに行うようにしている。感染症の予防に関しては、園医との情報共有や各教員の意識向上にも努めている。

また、園児が感染症に罹患した場合には家庭でも予防に努める様に、配布物「月のお知らせ」の中や園内の掲示板にも情報を掲示して手洗いうがいの徹底を呼びかけて、集団での感染症予防に努めている。

年間を通して手洗い、うがいを徹底し、身につくように指導してきた。

春の健康診断・歯科検診は5月に園医が行い、診断結果については紙に表わし各家庭に配布している。

(2) 今後の課題

今後も園児一人ひとりの健康観察を丁寧に行い、保護者と連携を取りながら体調把握に努め、感染症についての情報を共有していく。

疾病予防については、年々新型のウイルスによる感染症も認められていることから、今後も幼児の疾病について各教員が情報収集し、学び続けていくことが必要である。

年に1度の健康診断や歯科検診では園医の指示を仰ぎ、園で取り組めることがあれば連携を図り取り組む。

③安全管理

(1) 分析

〔視点〕事故等の緊急事態発生時の対応状況

〔状況〕各教員が臨機応変な対応、的確な状況判断が出来るように様々な事象を想定した訓練を重ねている。特に年度初めには新しい教員への指導を丁寧に行い、更に全教員で各行事に合わせた様々なシュミレーション訓練を行っている。

また、園生活に不慣れな園児が多い時期には、幼児の不安を軽減し取り組めるような計画、改善をしている。

園で作成している「安全マニュアル」に基づき、毎月防災・避難訓練を実施し事故の防止に努めるとともに、幼児が安全な避難の仕方を身に付け、身体を守ることの大切さを学べるように工夫している。日常的には遊具や環境の点検、保守を行い、様々な状況を想定した訓練を警察署、消防署や地域の公立幼稚園、小学校と連携を図りながら実施してきた。実施後は、職員会議で反省点を明らかにし、改善に繋げている。

また、教職員が救急法の講習会に参加したり、AEDの使用法を学び、安全のための能力向上に役立てている。

(2) 今後の課題

安全管理に取り組み、様々な状況を想定した訓練を重ねていく。

更に「安全マニュアル」を見直し、教員それぞれが活用し、日々の確認を怠らないようにする。

〔視点〕園内、または園付近通園路の安全点検の状況

〔状況〕学期初めに、チェックシートに基づき、園舎内、園周り、園庭の環境点検を全教員で行っている。また、日常的に施設設備や園周辺の環境、通園路を点検確認し、危険な所がないようにしている。異変に気付いた場合は即座に報告し合い、注意事項があれば教職員で共有し、対処すべきことがあれば対応している。

その都度、保護者に対しても留意点を配布物や掲示板を用いて明らかにし、口頭でも発信し注意喚起に努めている。

(2) 今後の課題

引き続き園内、近隣、通園路の点検に取り組み、変化や危険個所について教員が共有し、対処すべきことは迅速に対応する。

④組織運営

(1) 分析

〔視点〕園務が分掌され円滑に執り行われる組織体制の状況

〔状況〕園長を中心に全教員が協力体制で職務に臨み園務分掌することができた。園長、主任、専任教員、嘱託教員、補助教員、事務補助員の体制が整えられ、それぞれが各係に責任を持って臨み

情報共有も円滑に行うことができた。

年度後半に産休、育休取得の教員があったが、学園と協力した人的配置に努めた為、組織体制を維持することができた。

(2) 今後の課題

経験年数を重ねた教員が中心となり園務分掌が確立されてきた。この体制を維持する為に今後も状況に合わせた園務分掌を検討する。

〔視点〕職員会議の運営状況

(状況) 年度初めに作成した教員会議計画では、日程と議題について明らかにして計画的に教員会議を行っている。主に園児の活動内容や避難訓練や行事について全教員が共通認識、理解のために話し合い、取り組みに繋げている。

司会は園長、主任中心に行うが、内容によっては各係の担当者が担うこともある。会議の内容は、輪番制で書記が職員会ノートに記録している。年度初めの計画の他にも必要に応じて臨時の会議を柔軟に開き、話し合う機会をもっている。

毎朝行う朝礼では、嘱託教員、補助教員にも必要な連絡事項や確認事項を伝え、当日の活動や欠席者の罹患状況を確認し共有している。

(2) 今後の課題

今後も計画的に教員会議を行い、議題があれば必要に応じて柔軟に対応していく。

【添付資料1、平成30年度 職員会議計画】

⑤研修・資質向上の取り組み

(1) 分析

〔視点〕園内研修・園外研修の実施、参加状況

(状況) 今年度の園内研修では事例研修会を実施し、共立女子大学家政学部児童学科の先生3名が参加した。

各学年担任が、「2学期の子どもの姿から～主体的に遊ぶ姿を捉えて～」をテーマに、其々が捉えた事例を挙げ、その状況や背景・考察を発表する機会を設けた。

教員間で園児の姿について理解を深めるだけでなく、大学の先生を交えて考察や今後の展開・期待される姿等について話を深めることができたことで、園内の遊びが豊かな学びに繋がっていることを確認した。

園外研修は、不定期に開催されるものに参加し記録を残している。文京区私立幼稚園連合会が年一回開催する全教員対象の研修会には、全員で参加している。また長期休暇を利用した研修会には各自が必ず参加している。参加した研修の内容を研修会報告として共有ファイルに保管し、情報を共有している。休暇後の職員会議の中で各自参加した研修について発表し、その場で問題提起や意見交換の時間をもち、全教員の学びを深め知識獲得や資質向上に繋げた。

(2) 今後の課題

定期的に園内研修を実施し、教員の専門性や意識を高めていく。更に園外での事例発表の機会について検討、参加する。

園外研修に関しては教員に課せられている領域が増えていることから様々な分野に参加することが必要である。今後も夏期を中心に積極的に参加し、資質向上に努める。

【添付資料2、園内研修実施及び園外研修参加状況】

⑥学校評価

(1) 分析

〔視点〕自己評価の実施状況

〔状況〕「平成21年度学校評価」より自己評価を毎年行っており、結果を法人に提出している。その中で保護者アンケートを実施している。また、自由記述欄で記された質問等については、保護者との懇談会の折にアンケート結果の報告と共に取り上げ、改善に努めている。今年度は2月に実施し、回答率は87%であった。回答率は例年80%を超える。

結果については園で集計し、大いに思う(A)、思う(B)、どちらとも言えない(C)、あまりそう思わない(D)、そう思わない(E)で表し、%表示した。

今年度は園で行う教育全般について満足度を尋ねた項目では、「おおむね満足している」以上は、98%であった。

今年度も高い支持を得ることができた。

(2) 今後の課題

今後も保護者アンケートを含めた自己評価を教員全員で進め、検討し改善を図っていく。

【添付資料3、保護者アンケート、自由記述箇所より】

自由記述箇所には様々な意見が出された。アンケートの結果と共に添付資料に載せる。

⑦ 情報提供

(1) 分析

〔視点〕保護者への園公開の実施状況

〔状況〕年に一度各学年の保育参観を行い、保護者が園生活を見学する機会を設けている。その際、参観の感想アンケートの記入をお願いし、アンケートをまとめ分析し、その内容を全教員で共有している。園から回答が必要な事項がある時にはその都度対応している。

毎月行われる誕生会では誕生月の園児の保護者が参加出来る。年に1回ずつ実施する歓迎会、クリスマス会、交通安全指導、お別れ会については、全学年または対象学年の保護者の参加や見学が可能であり、行事を含めた園生活の公開に努めている。

(2) 今後の課題

普段通りの園児の姿が見られるように、引き続き各学年にとって最適な時期を探りながら、更なる公開についても検討していく。

〔視点〕園便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の提供状況

〔状況〕毎月、園便りとして「月のお知らせ」を保護者に配布している。

内容は、その月の行事予定や連絡事項、各学年の担任が明らかにする保育のねらいや活動について記載したものである。

また、園舎の玄関スペースの一部には、幼稚園での活動の様子を記し、写真と共に掲示している。各学年の遊びや製作、行事に関することである。保護者に分かりやすいように活動の過程についても明らかにすることで園生活が理解されやすい場になっている。

茶話会、親睦会、保護者会、個人面接などでは教員と保護者が直接話をする機会を設けるなど地道な情報提供に努めている。

(2) 今後の課題

情報提供の場を充実させ、掲示においては幼稚園での活動の過程を記載することや写真を多く用いて見やすく分かりやすい情報の提供に努めていく。

〔視点〕 ホームページを活用する等、広く周知するための工夫の状況

〔状況〕 様々な情報、お知らせなどをホームページを通して伝えていくことが定着してきた。

特にトピックスにおいては、行事と日常生活について理解されやすいように掲載し、園生活の理解に繋げている。平成30年度には、様々な活動について取り上げた「トピックス」を56回更新した。

(2) 今後の課題

園全体の雰囲気や活動の様子などがより理解しやすいように、ホームページを活用した情報提供をしていく。

⑧保護者・地域住民との連携

(1) 分析

〔視点〕 地域や保護者の実情や要望による子育て支援活動の実施状況

〔状況〕 地域支援活動としては、未就園児の園庭開放、絵本の読み聞かせを実施している。

園庭開放では、安心して遊べる遊具や玩具を選定し、実施時には教員が遊具や玩具の使い方について付き添い助言して子育て支援に繋げている。

絵本の読み聞かせは大日坂2号館が完成した年に開始して6年目に入った。今年度は絵本の選定と歌や手遊びの取り入れについて内容を充実した。読み聞かせの開始前からピアノの演奏が流れるなど親子がゆったりとその空間やその場を楽しんでいかれる取り組みをして、参加者が定着した。

きょうだいがいる在園児保護者に向けては、「月のお知らせ」や園の掲示で開催についての情報提供を行っており、午後実施の園庭開放にはきょうだいがいる在園児も親子で遊ぶ姿が多く見られる。

(2) 今後の課題

園庭開放、絵本の読み聞かせにおいては、教員とボランティアである卒園生保護者とが連携し内容検討を重ね、親子共に楽しめる場作りに努めていく。

また保護者に関しては、様々な意見に耳を傾け、柔軟に対応し家庭との連携に努める。

⑨預かり保育

(1) 分析

〔視点〕 園や教職員による受け入れ体制の状況

〔状況〕 在園児対象の預かり保育を実施している。

実施日は週4日（月・火・木・金）（行事などがある時は実施せず）であり、保育終了後2時間園舎1階の保育室で実施している。

専用教員2名（幼稚園教諭免許取得者）が保育にあたっているが、平成30年度は朝から勤務している保育補助の教員が預かり保育も担当したことから、園児一人ひとりの姿を理解し保育することに繋がった。費用は事前予約2時間、600円、当日予約800円（何れも簡単なおやつ代を含む）である。

今年度は103日実施した。暦の関係で昨年度より実施日数は減少したが、利用者数は増加し、延べ利用者数は1281人であった。1日の平均利用者数は12人である。

定員は1日15人であるが、3学期には希望者が増加するため、約20人までは時期や事情を考慮して受け入れており、柔軟に対応している。

通常の保育終了後の時間であることや定期利用を受けていないため、ゆったりと過ごせるように努めており課題活動は取り入れていない。

園児が預かり保育に不安を感じている時や預かりのスタッフが体調を崩した時、時間延長を利用し、更に延長する時は園長をはじめ専任教員が補助している。

(2) 今後の課題

長年従事してきた教員1名が退職したことから、補助教員1名が通常の保育時間だけでなく、その後の預かり保育についても勤務したことにより、保育の流れを考慮した遊びを展開することができた。今後も幼稚園の預かり保育として、毎日利用者が変わる中でゆったりと過ごしつつも内容について検討していく。

「預かり時間を延長して欲しい」「朝も実施して欲しい」という要望が稀にある。特別な事情で要望がある時には柔軟に受け入れ対応している。今後の需要については、社会情勢や園の実情に合わせた対応を検討していく。

添付資料

【添付資料1、職員会議計画状況】

| 月 | 日 | 曜日 | 内容 |
|----|----|----|----------------------------------------------------|
| 4 | 2 | 月 | 1年の初めに(園長先生からの話・係りの分掌・曲決め・教育の重点など)・安全確認 |
| 4 | 3 | 火 | 始業式、入園式、歓迎会の打ち合わせ |
| 4 | 11 | 水 | 入園式・歓迎会の反省、 避難訓練、プレーデーの打ち合わせ |
| 4 | 18 | 水 | 避難訓練の反省、実習生の確認(基礎演習について) |
| 4 | 22 | 日 | プレーデーの反省 |
| 4 | 25 | 水 | 子どもの日、健康診断の打ち合わせ |
| 5 | 2 | 水 | 歯科検診、遠足の打ち合わせ |
| 5 | 18 | 水 | 避難訓練打ち合わせ、遠足の反省、ファミリーデーの打ち合わせ |
| 6 | 4 | 月 | 避難訓練、体験入園の打ち合わせ |
| 6 | 23 | 土 | ファミリーデーの反省 |
| 7 | 2 | 月 | 避難訓練の打ち合わせ、体験入園の反省 |
| 7 | 9 | 月 | 軽井沢の打ち合わせ |
| 7 | 17 | 火 | 1学期の反省 |
| 7 | 23 | 月 | 軽井沢の反省 |
| 7 | 24 | 火 | 運動会のプログラム(全体の流れ、各学年の競技について)、 共立祭のこと(各学年の計画について) |
| 9 | 3 | 月 | 始業式、引取り訓練、入園説明会の打ち合わせ、運動会(決まっていないことなど) |
| 9 | 4 | 火 | 共立祭(内容など細かい報告) 研修報告 |
| 9 | 18 | 火 | 運動会の細かい最終相談(1日の流れについて)、志願者健康診断、見学日などについて |
| 9 | 30 | 日 | 運動会の反省 |
| 10 | 10 | 水 | 避難訓練、遠足、共立祭の打ち合わせ |
| 10 | 26 | 金 | 共立祭、遠足の反省、入園考査の打ち合わせ |
| 11 | 7 | 水 | 避難訓練の打ち合わせ |
| 11 | 19 | 月 | 合同避難訓練について |
| 12 | 6 | 木 | クリスマス会の打ち合わせ |
| 12 | 18 | 火 | クリスマス会、2学期の反省 |
| 1 | 8 | 火 | 事前保育、一日入園、避難訓練の打ち合わせ |
| 1 | 18 | 金 | 事前保育の反省、新入園児保護者会、豆まきの打ち合わせ、 文私幼研修会の意見など |
| 1 | 28 | 月 | ゆうぎ会、避難訓練の打ち合わせ |
| 2 | 8 | 金 | ゆうぎ会の反省、交通安全指導の打ち合わせ |
| 2 | 25 | 月 | お別れ遠足の打ち合わせ、お別れ会の劇決め |
| 3 | 6 | 水 | 一日入園反省、お別れ会の打ち合わせ |
| 3 | 11 | 月 | 卒園式の打ち合わせ |
| 3 | 18 | 金 | お別れ会、卒園式、3学期の反省、一年の反省 |

【添付資料 2、園内研修実施及び園外研修参加状況】

(園内研修実施状況)

- ・ 2018年6月15日(金)
「目的や意識を持ちながら教育するカリキュラム・マネジメントについて」
教員が園外で受けた研修を園に持ち帰り、全教員で共有した。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から、「育たなければいけない」のではなく、「育ってほしい」と願う観点を持ち、子どもが主体的に遊ぶ中で子どもを育てていくことの大切さについて理解を深め、話し合った。
 - ・ 2018年9月4日(火)
「夏休み参加の研修を共有する」
各教員が参加した様々なテーマの研修をそれぞれが資料を示しながら、実技を伴うものは、実技についても同時に示しせつめいした。その後それぞれ質疑応答の時間を持った。
 - ・ 2018年12月17日(月)
「2学期の子どもの姿から～主体的に遊ぶ姿を捉えて～」
共立女子大学家政学部児童学科の先生3名が参加し、クラス担任が1例ずつ遊びの事例を挙げ、状況や背景について写真を用いて発表した後、考察を深めた。
- 1、もり組 レストランごっこ (発表者：年少組担任 波利摩 紗弥子)
 - 2、もり組 電車ごっこ (発表者：年少組担任 山田 有希)
 - 3、おひさま組 発表を楽しんで (発表者：年中組担任 間宮 紗矢香)
 - 4、こばと組 ボール遊び (発表者：年長組担任 渡邊 美季)

(園外研修参加状況)

| 日 | 参加者 | 表題 | 講師 |
|------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 6/20 | 間宮 | 今、捉えておきたい子どものからだ～小児科医からみた子どもの健康について～ | 高橋系一 |
| 7/23 | 間宮 | 子どもの表現する力を育てるからだ遊び・つながり遊び | 多田純也 |
| 7/26 | 池田 | 1 動作法～子どもの心の発達を動作でサポートする 2 保護者をどう理解し、どう関わるか | 川瀬里加子 山崖俊子 |
| 7/26 | 波利摩 | 子どもの心と身体が踊るリズム表現&リズムあそび | かむらまさはる |
| 7/27 | 伊藤 | 1 変わらないこと、変えていくこと、この時代の保育に大事なこと 2 想いが伝わる話し方、声と言葉のコミュニケーション 3 井上あずみのほんわかステージ | 大豆生田啓友 吉川美代子 井上あずみ with ゆーゆ |
| 7/31 | 伊藤 | 保育技術を高めるためのうたあそび、ゲームあそび | 荒牧光子 |
| 8/1 | 波利摩 | 幼児のための絵画指導入門 | 浪岡幸子 |
| 8/5 | 山田 | 遊びの育ちを見つめる | 田代幸代 |
| 8/7 | 渡邊 | やってみよう！全員参加の「劇ごっこ」作品作り | 大森靖枝 |
| 8/9 | 山田 | 幼児のことば遊びの会 | 村石昭三 他 |
| 8/10 | 渡邊 | 幼児の造形あそび・デザイン遊び | 今野道裕 |

| | | | |
|-------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 8/20 | 間宮 | 保育の専門性を高めるコース 1 子どももおとなも生きることとことん楽しむ保育 デザイン 2 子ども心の育ちと大人のかかわり方 3 小児医学からみた「気になる幼児への親と協力して 始める早期対応」 | 坂本喜一郎 渡辺弥生 作田亮一 |
| 12/19 | 上野 池田 | 文京区における乳幼児教育の在り方について | 宮里暁美 |

【添付資料3、保護者アンケート】

2018年度 共立大日坂幼稚園 学校評価 保護者アンケート (2019年2月実施)

A: 大いにそう思う B: そう思う C: どちらとも言えない D: あまりそう思わない E: そう思わない

評価について%表示する。

| No. | 事 項 | A | B | C | D | E |
|-----|-----------------------------------------|-------|-------|-------|------|---|
| 1 | 共立大日坂幼稚園は、教育方針や目標がしっかりしている | 84.0% | 16.0% | | | |
| 2 | 教育方針や目標にそって保育実践がなされている | 79.6% | 19.3% | 1.1% | | |
| 3 | 園は、子どもの自主性や意欲を大事にしている | 86.3% | 12.5% | 1.2% | | |
| 4 | 園は、生活習慣や社会のルールを時を捉えて理解させ、身に付けるように指導している | 85.2% | 14.8% | | | |
| 5 | 園は、身近な自然に対する興味を養い豊かに育てようとしている | 81.8% | 17.1% | | 1.1% | |
| 6 | 園は、絵本や童話に親しむことを通し話を聞く力も育てようとしている | 72.7% | 25.0% | 2.3% | | |
| 7 | 園は、音楽や造形に親しみながら感性や表現力を育てようとしている | 62.5% | 31.8% | 3.4% | 2.3% | |
| 8 | 園は、友達との関わりや異年齢、他学年との交わりを大切に育てている | 72.7% | 23.9% | 3.4% | | |
| 9 | 教師は、遊びを大切にし、発展させ、豊かな学びを促している | 84.1% | 11.4% | 4.5% | | |
| 10 | 教師は、一人ひとりを理解し必要に応じた援助をしている | 73.9% | 22.8% | 2.2% | 1.1% | |
| 11 | 担任だけでなく教職員全員で一人ひとりを育てようと協力している | 78.4% | 18.2% | 3.4% | | |
| 12 | 教師は、明るく生き生きとしている | 83.0% | 14.8% | 1.1% | 1.1% | |
| 13 | 園は、家庭との連携を大切にし、保護者と協力して教育を進めようとしている | 76.2% | 21.6% | 1.1% | 1.1% | |
| 14 | 保育参観や個人面談など、園生活の様子が分かる場が提供されている | 67.0% | 28.4% | 4.6% | | |
| 15 | 保護者は、園や教師に子どものことを相談しやすい | 64.8% | 22.7% | 10.2% | 2.3% | |
| 16 | 園は、預かり保育など子育て支援に努力している | 52.3% | 40.9% | 6.8% | | |
| 17 | 園は、地域や未就園児などに活動の場を提供している | 51.2% | 39.8% | 9.0% | | |
| 18 | 園は、清掃が行き届き衛生的な環境づくりをしている | 92.0% | 8.0% | | | |
| 19 | 園は、防犯対策や防災対策に努め、安全確保に努力している | 88.6% | 11.4% | | | |
| 20 | 園は、個人情報保護に努めている | 72.7% | 27.3% | | | |
| 21 | 園は、学園の併設園として中高・大学と連携があると思う | 59.1% | 40.9% | | | |
| 22 | 自分の子どもは、幼稚園に喜んで通っている | 86.4% | 11.4% | 1.1% | 1.1% | |
| 23 | 共立大日坂幼稚園の生活について満足している | 84.1% | 14.8% | | 1.1% | |

(自由記述箇所より)

概ね評価を得られており、自由記述箇所では子どもの成長に対する喜びや感謝を綴るものが多かった。ここでは課題点として、記述の内容を1. 園への要望、2. 家庭との連携、3. 保育内容、4. その他の5つに分類し取り上げる。

1. 園への要望

- ・預かり保育の保育時間を長くして欲しい
- ・保育時間を長くして欲しい
- ・園外保育の翌日の午前保育は無くして欲しい。
- ・教員の人数がもう少し多いと良い

幼稚園では通常の保育時間や預かり保育時間に関しては、幼児の活動として適切な時間を考慮し実施している。其々の負担にならないようにしながら、社会の要望について鑑み、本園の方針について今後も検討を重ねていく。

遠足や園外保育の翌日は午前保育を設けていたが、教員間で検討を重ねてきたこと、社会の情勢の変化に合わせ2019年度は通常保育にしていく。

教員の数については、今後も適正な数を維持し、育児休業取得時についても補充に努める。

2. 家庭との連携

- ・お迎え時に子どもの様子について一言報告して欲しい
- ・保育参観の機会を増やして欲しい(学期に1回)

現状では、個人面談の機会が学期ごとに1回(年3回、1人10分～15分)、保育参観が年1回(学年により時期は異なる)、誕生会の参観(自身の子どもの誕生日)、保護者会(年長組は年1回、年少組・年中組は年2回)がある。園からの発信として、出席ノートのコメント(毎月)、月のお知らせ紙面のクラス覧(毎月)、ホームページの更新、玄関ボードの園児の様子コメントなどがある。面談については、実施時期でなくても個別に受け入れている。

園からの提供機会、情報発信については改善を重ねているが、更に検討を重ねる。

3. 保育内容

- ・夏の水遊びを多くして欲しい(母親のボランティアを募ったらどうか)
- ・年少組でも歯磨きを取り入れて欲しい
- ・縦割り活動を増やして欲しい

学年ごとの発達に合わせて活動内容を検討している。改善できる点は教員間で話し合い、活動内容の改善に繋げる。

4. その他

- ・園庭開放や絵本の読み聞かせ等の活動を増やして欲しい
- ・ゆうぎ会では足の不自由な方へ優先席があると良い

未就園児の活動について、検討、改善に繋げており、2019年度は夏休みに教員による読み聞かせを実施する予定である。

行事について更に検討し改善する。